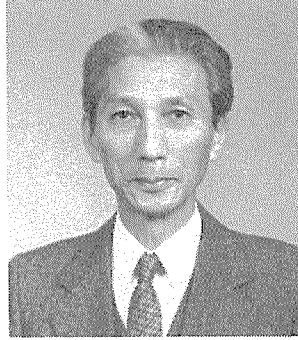


竹内 清教授著作目録

昭和 62 年 3 月
東北大学記念資料室
(著作目録第 310 号)



竹内 清 教授 略 歴

生年月日 大正13年（1924年）4月1日（戸籍上は3月30日）
出身地 長野県 [REDACTED]
本籍地 新潟県 [REDACTED]
現住所 [REDACTED]

学 歴

昭和16年（1941年）	3月	長野県立上田中学校卒業
同 年	4月	横浜専門学校高等商業科入学
昭和18年（1943年）	9月	同校卒業
昭和24年（1949年）	4月	東京商科大学入学
昭和27年（1952年）	3月	同 卒業
昭和27年（1952年）	4月	一橋大学大学院研究奨学生（特別研究生）（前期）
昭和30年（1955年）	3月	同 修了

職 歴

昭和30年（1955年）	4月	小樽商科大学専任講師
昭和34年（1959年）	8月	同 助教授
昭和39年（1964年）	9月	アメリカ合衆国テキサスA&M 大学及びプリンストン大学において研究に従事（文部省在外研究員及び両大学のリサーチ・アソシエートとして昭和41年9月まで）
昭和41年（1986年）	10月	小樽商科大学教授
昭和46年（1971年）	1月	東北大学教授（経済学部）に配置換
昭和48年（1973年）	10月	東北大学評議員併任（至昭和50年9月）
昭和50年（1975年）	10月	東北大学評議員併任（至昭和52年9月）

- 昭和52年（1977年）9月 オスカー・ランゲ経済大学（ポーランド・ヴロツワフ市）その他で共同研究に従事（ポーランド科学アカデミー及びオスカー・ランゲ経済大学客員教授として昭和53年3月まで）
- 昭和55年（1980年）3月 オスカーランゲ経済大学（ポーランド・ヴロツワフ市）において客員教授として共同研究に従事（至昭和55年5月）
- 昭和55年（1980年）10月 東北大学経済学部長及び同大学院経済学研究科長併任（至昭和57年10月）
- 昭和58年（1983年）5月 アメリカ合衆国テキサスA&M 大学において客員教授として研究，教育に従事（至昭和58年9月）
- 昭和60年（1985年）8月 オスカーランゲ経済大学（ポーランド・ヴロツワフ市）及びカロール・アダミエツキー経済大学（ポーランド・カトヴィツェ市）において客員教授として共同研究に従事（至昭和60年10月）

著 作 目 録

I 著 書

- 「原理編 A 記述統計，及び応用編 I～V」 森田優三編『経済学演習講座』青林書院
に所収 昭和30年 8 月
- 『時系列』（『経営数学』IVの一分冊） みすず書房 昭和33年 3 月
- 『統計的推理の方法 I』
- 『統計的推理の方法 II』 日本マネジメントスクール 昭和34年 4
月（改訂・増補：昭和47年 1 月）
- 『需要予測と販売計画』（『生産工学講座』
XIの中の一冊） 日刊工業新聞社 昭和35年 3 月
- 『デシジョン・メーカーのモデル化』
（『経営数学』VIIの中の一冊） みすず書房 昭和36年 6 月
- 『統計学入門』（森田優三・宮川公男と共
編著） 有斐閣 昭和44年 5 月
- 『需要予測入門』 丸善 昭和46年 1 月（第 2 版：昭和49年
5 月）
- 『経済統計学』 丸善 昭和54年11月

II 論文・研究ノート

- 「ミニマックス点推定について」 『ヘルメス 昭和26年度』（東京商科大学
一橋学会） 昭和27年 3 月
- 「行動決定とミニマックス原理」 『PR』No.5 昭和27年 5 月
- 「最小 2 乗法をめぐる若干の覚書」 『商学討究』第 7 巻第 2・3 号 昭和31
年12月

- 「企業における需要分析はいかにあるべきか」 『マーケティング』第2巻第6号 昭和32年6月
- 「予測の統計的意義」 山田雄三・久武雅夫編『経済シンポジウム7・経済計画と予測』日本評論社 昭和32年6月所収
- 「企業における需要予測と経営計画」 『アナリスト』第3巻No.6～8 昭和32年6月～8月
- 「需要分析入門」 『マーケティング』第2巻第8号～第3巻第4号 昭和32年8月～昭和33年4月
- 「最適月賦販売についてのノート」 『商学討究』第8巻第4号 昭和33年3月
- 「広告決定の考え方」 『広告研究1958年版』電通 昭和33年12月所収
- 「マーケティングのための広告へー問題把握のための事例研究」 『マーケット北海道』No.4 昭和34年3月
- 「市場予測及び経済予測」 『現代経営学全集 第5巻』中央公論社 昭和34年8月所収
- 「月賦販売における資金繰りについて」 『商学討究』第10巻第3号 昭和35年2月
- 「ORを活用した地域構造の分析—産業連関分析からみた北海道経済」 『オペレーションズ・リサーチ』Vol. 5, No. 5 昭和36年8月
- 「ソ連における需要分析の理論ならびに応用をめぐる若干の問題(1)」 『商学討究』第12巻第4号 昭和37年2月
- 「MRの手法・実査の方法と手順」 日本マーケティング協会編『マーケティング便覧』丸善 昭和37年7月所収
- 「ソ連における需要分析の理論ならびに応用をめぐる若干の問題(2)」 『商学討究』第13巻第2号 昭和37年9月

- 「家計費分析」 中山伊知郎編『現代統計学大辞典』東洋
経済新報社 昭和37年10月所収
- 「戦後の物価変動」 森田優三編『物価』春秋社 昭和38年 2
月所収
- 「耐久消費財のスコアについて」(清水川
緋紗子との共著) 『商学討究』第14巻第1号
昭和36年6月
- 「ソ連における消費需要分析—弾力性概念
の応用を中心として—」 『商学討究』第14巻第2号
昭和38年9月
- 「回帰係数の推定について (I)」 『商学討究』第14巻第3号
昭和38年11月
- 「回帰係数の推定について (II)」 『商学討究』第14巻第4号
昭和39年2月
- 「Some methods of estimating
regression parameters」 『商学討究』第15巻第1号
昭和39年6月
- 「技術進歩と市場拡大」 伊大知良太郎・桐田尚作編『企業の需要
予測』丸善 昭和40年10月所収
- 「2点法による推定量の若干の性質につい
て」 『久武雅夫先生還暦記念論文集』春秋社
昭和40年10月所収
- 「需要分析と需要予測・販売分析と販売予
測」 マネージメント・リサーチ・ハンドブック
編集委員会編『マネージメント・リサー
チ・ハンドブック』丸善 昭和42年5月
所収
- 「On minimum variance unbiased
estimators」 『商学討究』第18巻第1号
昭和42年6月
- 「最適推定の問題—minimum variance
unbiased estimators について」 『商学討究』第18巻第2号
昭和42年11月
- 「生活と広告—アメリカにおける広告論争
を中心として—」 『広告研究 1967年版』電通
昭和42年12月所収

- 「最小分散不偏推定量についての一考察」 『商学討究』第18巻第4号
昭和43年6月
- 「最小分散不偏推定量について一線型微分作用素の応用一」 『商学討究』第19巻第1号
昭和43年8月
- 「企業における需要予測」 名東孝二・田内幸一編著『市場開発 ABC』日本工業新聞社 昭和43年9月所収
- 「ロシアにおける家計調査」 『商学討究』第19巻第2号
昭和43年9月
- 「ソ連邦における家計調査について」(村上仁美との共著) 『商学討究』第19巻第3号
昭和43年12月
- 「統計的推定問題への L_2 空間の応用についての一考察」 『商学討究』第20巻第4号
昭和45年3月
- 「チェトヴェリコフの抽出調査理論—1919年論文を中心として—」 『研究年報「経済学」』第33巻第1号
昭和46年9月
- 「On family budget survey in Russia」 『商学討究』第22巻第4号
昭和47年2月
- 「ソ連における家計調査」 『統計』第23巻第4号～第24巻第7号
1972.4～1973.8
- 「革命前のロシアにおける労働者の生活状態」 『社会科学の方法』第5巻第8号
昭和47年8月
- 「月賦販売における資金繰り問題についての一考察」 『研究年報「経済学」』第35巻第3号
昭和49年3月
- 「グループ分けした統計表から導出した回帰係数の推定精度について」 『研究年報「経済学」』第35巻第4号
昭和49年3月
- 「標本調査発達史についての一研究—抽出調査法の起源をめぐって—」 『研究年報「経済学」』第38巻第4号
昭和52年3月

- 「ポーランドにおけるマーケティングについての若干の考察」 『研究年報「経済学」』第40巻第1号
昭和53年6月
- 「ポーランドにおける社会・経済問題の若干の側面」 『東北開発研究』第15巻第1・2号
昭和54年9月
- 「International comparisons of socioeconomic development (With special reference to Japan and Poland)」(Z. Hellwig との共著) 『Systems Science』Vol. 6, No. 1
昭和55年5月
- 「19世紀末における代表的調査方法についての一考察」 『研究年報「経済学」』第42巻第4号
昭和56年3月
- 「頑健な計量経済分析法についての一考察—工業統計調査データによる生産関数の推計—」(細谷雄三・栗山規矩・高橋幸雄との共著) 『研究年報「経済学」』第43巻第3号
昭和57年1月
- 「標本調査発達史についての一考察—わが国における抽出調査法(サンプリング)の濫觴をめぐって—」 『研究年報「経済学」』通巻156号
昭和60年2月
- 「CONSUMPTION STRUCTURES IN JAPAN AND POLAND—AN ECONOMETRIC STUDY—」(K. Starzec との共著) 『応用情報学研究年報』第10巻第2号
昭和60年3月
- 「CONSUMPTION STRUCTURES IN JAPAN AND POLAND—AN EXTENSION (1965–1983)—」(K. Starzec との共著) 『応用情報学研究年報』第12巻第1号
昭和61年10月

III 翻 訳

I.D.J. ブロス『決定と計画』(I.D.J. Bross. *Design for Decision*, 1953.)

みずぐ書房 昭和35年7月

Selected Russian Papers on Game Theory, 1959-1965 (ロシア語で書かれたゲームの理論に関する論文を英訳したもの: 14編中11編 (pp. 1~78) を担当。残り3編は E. Wesley が担当)

Econometric Research Program,
Princeton Univ. 昭和43年4月

カルマン J. コーエン・フレデリック S. ハマー編「銀行のオペレーションズ・リサーチ」

日本評論社 昭和43年5月

(*Anlytical Methods in Banking*, ed, by Kalman J. Cohen & Frederick S. Hammer, 1969, 北海道拓殖銀行調査部訳, の監修ならびに数学付録を執筆)

IV 書 評

M.H. Hansen, W.N. Hurwitz, W.G. Madow, *Sample Survey Methods and Theory*, Vol. I, Vol. II, 1953
I.D.J. ブロス『決定のための設計』(I.D. J. Bross, *Design for Decision*, 1953)

『一橋論叢』第32巻第6号

昭和29年6月

L.L. ヴァンス, J. ネッター『監査人及び会計士のための統計的サンプリング』
(L.L. Vance and J. Neter. *Statistical Sampling for Auditors and Accountants*, 1956)

『一橋論叢』第38巻第1号

昭和33年1月

R. シュレーファー「ビジネス・デシジョンのための確率と統計」(R. Schlaifer, *Probability and Statistics for Business Decisions: An Introduction to Managerial Economics under Uncertainty*, 1959)

『一橋論叢』第44巻第3号

昭和35年9月

アー・イ・イエジョフ著『分布系列の平滑化と計算』1961 (A.И. Ежов, *Выравнивание рядов распределений*, 1961)

『商学討究』第13巻第4号
『商学討究』第13巻第4号

昭和38年3月

岩田暁一著『経済分析のための統計的方法』 『季刊理論経済学』第19巻第2号
1967 昭和43年7月

宮沢光一著『情報・決定理論序説』昭和46年 『経済学論集』第38巻第4号
昭和48年1月

V 資 料

ソ連における最近の「経済学研究における
数学的方法の利用」に関する文献について 『商学討究』第15巻第2号
昭和39年9月

ポーランドの大学 『社会科学の方法』第12巻第1号
昭和54年1月

